

平成 16 年 2 月の解説

【2月の天気予報から】 雨の予報と降水確率の利用のしかたについて

2月2日は、二つの低気圧が太平洋側と日本海側を東進したため、全国的に雨や雪になりました。前日17時に発表した関東地方のこの日の予報は、「曇り昼頃から雨」でした。実況では、12時前に神奈川県の一部で降り始め、その後雨域は広がり15時には関東地方全域で雨となり、21時にはやみました。一方、3日は上空の寒気の影響で、関東地方北部の茨城県、栃木県のほぼ全域で午後雨や雪となりましたが、前日17時の予報は「所により一時雨か雪」でした。

予報文では同じ「雨」でも、降りやすさの程度はさまざまです。雨の予報の確度と雨の降る可能性の高い時間帯を同時に理解するには確率予報が便利です。1日17時に発表した東京地方の予報では、2日6時から12時までの降水確率は30%、12時から18時までには60%、24時までには50%でした。この降水確率からは、午前と比べ午後に急に雨が降りやすくなり、その後雨の可能性は少し低くなるものの、夜遅くまで続く可能性が高いことがわかります。

一方、2日17時に発表した茨城県の3日の18時から24時までの降水確率は20%でした。関東地方ではこの時期、6時間の間に雨や雪の降る平均的な確率が10%ですので、3日は普段よりは雨または雪になる可能性が高いことがわかります。「所により一時雨か雪」という予報と20%の確率に気をつけておいて3日朝の予報を見ると、茨城県北部では確率が30%になっていましたので、雨または雪の可能性が前日夕方予報に比べ少し高くなったことがわかります。このように、文章で表現された予報とともに確率予報を使うことで、天気予報を上手に利用することができます。

【2月の天候状況及び検証結果】

上旬は冬型の気圧配置となり寒気が東日本以西に入る日が多く、中旬から下旬にかけては概ね数日の周期で天気は変化しました。14日には日本海を低気圧が発達しながら通過して多くの地方で春一番の便りが届きました。また21日から22日には低気圧が発達しながら日本付近を通り大荒れの天気になりました。

このような天候状況でしたが、夕方(17時)発表の明日予報の「降水の有無」の適中率は、全国平均では例年に比べ7ポイント高い89%で、本検証を始めた1992年以来2月としては最高の適中率でした。地方別に見ますと、関東甲信地方以西で90%以上の適中率の地方が多く、特に関東甲信、九州南部、沖縄の各地方では94%以上の適中率でした。

2月の全般的な気温の状況は、全国で平年を上回り、特に、北日本、東日本、西日本の一部では2℃以上上回ったところがありました。

夕方(17時)発表の明日の最高気温及び最低気温の予報誤差は、全国平均では例年並の結果(どちらも1.6℃)となりました。

【天気予報の利用にあたって】

気象庁は、数値予報モデルの改良や予測手法の改善を一層続け、予報精度のさらなる向上を目指しています。しかし、局地的な現象などによりまだまだ技術的に予測の難しい場合がありますので、できるだけ最寄りの気象台から発表する最新の天気予報をご利用ください。